令和5年度授業改善プラン

1. 全体計画

中野区立南中野中学校

学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、知性と感性に富み、心身ともに健全で、人間性豊かな生徒の育成を目指す

〇自ら学び、考え、実践できる人になろう（賢く）　〇思いやりのある、心豊かな人になろう（優しく）

〇心身ともに、たくましい人になろう（逞しく）

令和5年度学校経営方針（学力向上に関わる要点）

【経営モットー】FOR 2050 ～考えを交流し、深め合う学校を目指して～

<課題>主体的・対話的で深い学びの実現、基礎・基本の徹底、家庭学習の習慣化

【成果指標】（1）「家庭で学習(予習)している」と感じる生徒65%以上、

「自分の学力は向上している」と感じる生徒65%以上

（2）「家庭で毎日学習している」と感じる保護者 50%以上

（3）「中野区学力調査の目標値」を達成する生徒70%以上

「国・都学力調査」都平均以上

指導の重点（各教科）

◎学習意欲を向上させ、学習評価を生かした指導の工夫を図るとともに、家庭と連携し家庭学習ノートの取組で学習習慣の定着を図る。

◎「中野区学力にかかわる調査」や「東京都児童・生徒の学力を図るための調査」「全国学力学習状況調査」の結果を活用し、指導方法の見直しを進め、授業改善プランを策定し、分かる授業を実践する。また、各教科の指導において、言語活動の充実及び主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、思考力・判断力・表現力の更なる向上に努める。

◎数学・英語において、全学年で習熟度別少人数指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。また、習熟度の進んでいる生徒には発展的な学習に取り組ませる。理科においては2・3年で少人数指導やTTによる指導を取り入れ、個別指導を展開し、基本的な観察・実験技能を確実に習得させる。

指導の重点（総合的な学習の時間）

「共に生きる」を全校テーマとし、将来に渡って逞しく生きるための知識や各教科の学習で身に付けた力が活かされるよう、課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の探究のプロセスを通じた生徒一人ひとりの資質・能力の向上を図る。特に、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、横断的、探究的な学習を充実させ、実社会・実生活において活用できる主体的、創造的、協働的な学習の基盤となる資質・能力を育成する。また、まとめ・表現・発表の機会を通して、ICT機器活用能力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

授業改善に向けた具体的方策

基礎的・基本的な学習内容の定着	発展的な学習	指導と評価の一体化
生徒全体の学力向上のため、任期付短時間勤務教員を活用し放課後学習教室を実施するとともに、長期休業中には補充教室を実施し、基礎・基本を身に付けさせる。	数学は全学年での少人数習熟度別指導、英語は1・2年での少人数指導と3年での少人数習熟度別指導、理科は2・3年での少人数指導を取り入れた指導を実施する。	一人ひとりの可能性を伸ばし、確かな学力の定着を目指し、各教科の指導計画及び評価計画に基づいて指導と評価の一体化を図る。
「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実	**ユニバーサルデザイン、合理的配慮**	**家庭・地域との連携**
「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、生徒の意見発表や話合い活動、レポートや論文の作成等の指導に力を入れ、全ての教科で更なる言語活動と ICT 活用の充実を図る。	全ての学級においてユニバーサルデザインや合理的配慮が提供された学級経営・授業づくりを実践し、誰もが互いに尊重し支え合い、多様なあり方を認め合う態度の育成に努める。	定期的に学校公開を行い、保護者や地域の方にアンケートを実施し、評価内容を授業改善に反映させる。

2 各教科における授業改善プラン

（1）国語科

【中学校】

国語科における指導の重点
・言語活動の充実を通して、思考力・判断力・表現力のさらなる向上を図ります。 ・一人1台端末を活用し、ICT機器を用いた学習と従来の学習活動を組み合わせた学習を通じ、一人ひとりの可能性を伸ばし、確かな学力を定着させます。 ・授業内における学校図書館の計画的な利用により、生徒の学習活動や読書活動の充実を図ります。

現状分析
区学力調査の結果分析
達成率　1年:66%　、2年:64.6%　、3年:63.7% ・「思考力・判断力・表現力等」は比較的力を付けていますが、「知識・技能」、特に筆記問題に課題があります。
教科指導上の課題
・漢字や文法事項などの基本的な知識・技能の確実な定着を図る指導をする必要があります。 ・短文、作文能力の定着を図るために、実際に文章を書く指導をする必要があります。

↓

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・ルビ付き教科書データの活用など、生徒の実態に応じて、適切に教材を活用します。 ・学校図書館を活用し、個々の興味・関心に応じた作文課題を決め、興味・関心を深めることで、学習活動の充実を図ります。 ・作文について、段落の役割や文章の構成などの観点で助言し合い、よい点や改善点を見いだすことで、学習活動の充実を図ります。	・学習アプリ「Qubena」を活用し、小学校六年間の範囲を含む漢字や語句、文法事項の確認など、授業の予習を行い、基礎的な内容の定着を図ります。 ・NHKforSchool の 10min ボックス現代文などの映像資料を使用し文学作品に触れ、文学作品に対する興味・関心を深め、読書習慣を定着させます。
2年生	・ルビ付き教科書データの活用など、生徒の実態に応じて、適切に教材を活用します。 ・学校図書館を活用し、個々の興味・関心に応じた作文課題を決め、興味・関心を深めることで、学習活動の充実を図ります。 ・作文について、段落の役割や文章の構成などの観点で助言し合い、推敲することで、学習活動の充実を図ります。	・学習アプリ「Qubena」を活用し、漢字や語句、1年の文法事項の復習、古典文法の確認など、授業の予習を行い、基礎的な内容の定着を図ります。 ・NHKforSchool の 10min ボックス現代文などの映像資料を使用し文学作品に触れ文学作品に対する興味・関心を深め、読書習慣を定着させます。
3年生	・ルビ付き教科書データの活用など、生徒の実態に応じて、適切に教材を活用します。 ・学校図書館を活用し、個々の興味・関心に応じた作文課題を決め、興味・関心を深めることで、学習活動の充実を図ります。 ・作文について、段落の役割や文章の構成などの観点で助言し合い、推敲を重ねることで、学習活動の充実を図ります。	・学習アプリ「Qubena」を活用し、漢字や語句、古典文法の確認など、授業の予習を行い、基礎的な内容の定着を図ります。 ・NHKforSchool の 10min ボックス現代文などの映像資料を使用し文学作品に触れ、文学作品に対する興味・関心を深め、読書習慣を定着させます。

（2）社会科

【中学校】

社会科における指導の重点
・基礎的な知識や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる力を身に付けさせることができるよう、ICTを活用し、わかる授業を展開します。 ・授業の中で資料を読み取ったり、生徒同士で議論したりしながら考えを深める活動を充実させます。 ・確かな学力の定着を目指し、指導計画及び評価計画に基づいて指導と評価の一体化を図ります。

現状分析
教科指導上の課題
「東京都児童・生徒の学力向上を図るための調査」によると、授業の内容に対する理解の程度は高い一方で、社会科を得意と感じる意識の程度には課題があります。そのため授業で学習内容を理解させるだけでなく、主体的な学習を促すとともに学習を習慣化させ、知識を定着させる指導を行う必要があります。

↓

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・授業ごとに3段階の学習目標を提示し、生徒に目標を選択させることで主体的な学習を促すとともに、個に応じた支援を行います。 ・協働学習支援ツール「コラボノート」などICTを活用しながら、生徒同士の議論や教え合いの機会を充実させます。 ・「Google classroom」を活用して、資料を生徒一人ひとりがタブレット端末で確認できるようにします。	・毎回の授業で次時に向けた予習課題を提示し、学習習慣の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題を取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・単元シートや小テストを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、生徒が自らの学習状況を把握し、学習を調整できるよう支援します。
2年生	・授業ごとに3段階の学習目標を提示し、生徒に目標を選択させることで主体的な学習を促すとともに、個に応じた支援を行います。 ・電子黒板を活用して資料を提示するなどICTを活用しながら、資料を読み取ったり、生徒同士で議論したりしながら考えを深める活動を充実させます。 ・「Google classroom」を活用して、資料を生徒一人ひとりがタブレット端末で確認できるようにします。	・毎回の授業で次時に向けた予習課題を提示し、学習習慣の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題を取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・単元シートや小テストを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、生徒が自らの学習状況を把握し、学習を調整できるよう支援します。
3年生	・授業ごとに3段階の学習目標を提示し、生徒に目標を選択させることで主体的な学習を促すとともに、個に応じた支援を行います。 ・電子黒板を活用して資料を提示するなどICTを活用しながら、資料を読み取ったり、生徒同士で議論したりしながら考えを深める活動を充実させます。 ・「Google classroom」を活用して、資料を生徒一人ひとりがタブレット端末で確認できるようにします。	・毎回の授業で次時に向けた予習課題を提示し、学習習慣の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題を取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・小テストを実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図るとともに、生徒が自らの学習状況を把握し、学習を調整できるよう支援します。

（3）数学科

【中学校】

数学科における指導の重点
・全学年で習熟度別少人数指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させます。 ・様々な解法がある問題等に取り組むことで、数学的価値観を広げさせると同時に、話し合い活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を向上させます。

現状分析
区学力調査の結果分析
達成率　1年:59.1%　、2年:56.3%　、3年:54.4% ・「図形」領域は定着が見られますが、「関数」領域には課題があります。
教科指導上の課題
・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る指導をする必要があります。 ・発展的な学習や考える学習への挑戦を通して、関心を高めていく指導をする必要があります。

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・基礎的な内容から発展的な内容まで各コースの生徒の実態に応じて、適切に教材を活用します。 ・数量の関係や図形の性質などを考察し、見いだしたことは根拠をもって表現し説明させます。 ・数学的な考え方で解決できる問題に協働的に取り組ませ、数学の楽しさを実感させます。	・少人数授業により机間指導などで個に応じた指導を丁寧に行い、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題に取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。
2年生	・基礎的な内容から発展的な内容まで各コースの生徒の実態に応じて、適切に教材を活用します。 ・数量の関係や図形の性質などを考察し、見いだしたことは根拠をもって表現し説明させます。 ・数学的な考え方で解決できる問題を協働的に取り組ませ、数学の楽しさを実感させます。	・少人数授業により机間指導などで個に応じた指導を丁寧に行い、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題に取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。
3年生	・基礎的な内容から発展的な内容まで各コースの生徒の実態に応じて、適切に教材を活用します。 ・数量の関係や図形の性質などを考察し、見いだしたことは根拠をもって表現し説明させます。 ・数学的な考え方で解決できる問題を協働的に取り組ませ、数学の楽しさを実感させます。	・少人数授業により机間指導などで個に応じた指導を丁寧に行い、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題に取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。

（4）理科

【中学校】

理科における指導の重点
・レポート作成や実験の結果・考察の交流の活動を実施し、言語活動の充実を図ります。 ・実験結果の話合いで考えを広げたり、ICT機器を効果的に使ったりして、生徒主体で課題を解決する力や生徒の学ぶ意欲を育成し、思考力・判断力・表現力の更なる向上に努めます。 ・第2・3学年において、少人数授業または TT 授業を展開し、個々の生徒にきめ細かな指導を行っています。

現状分析
教科指導上の課題
・実験結果をもとに、生徒自身が自分の考えをもって考察に臨む力に課題があります。そのため、結果の見方や考察の考え方をより具体的に示し、適宜机間指導をして、生徒が考えをまとめやすいように促します。 ・定期考査の結果から、特に「思考力・判断力・表現力」の観点に課題があります。そのため、レポート等を用い、言語活動をより充実させるとともに、ICT機器等を用いた分かる授業の実践を図ります。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・科学の原理・原則を学ぶ過程において、問題に対する自分の予想や考えをタブレット端末に入力し、学級全体で共有できるようにします。 ・科学的なものの見方について、討論の場を設定し、思考力・判断力・表現力の向上を目指します。	・授業では目標を明示し、学習に見通しをもたせる。また、授業で理解した内容について、実践練習のために「Qubena」を利用し、基礎・基本の定着を図ります。 ・基礎的・基本的な内容の定着を図るために、岩波科学映画の部分利用や動画視聴により、視覚的にサポートを行います。
2年生	・一人１台端末に予習課題や授業で用いたスライド、プリント等を送信し、自分の学習進度や目的に応じて学習ができるようにします。 ・学んだ知識・技能を用いて、共通の課題についてグループで話し合い、考えを広げ、思考力・判断力・表現力の更なる向上を目指します。	・理科の家庭学習のしかたを提示し、家庭学習ノート等を用いて、学習習慣の定着を図ります。 ・教師用デジタル教科書や動画を用いて、実験のようすを理解し、見通しをもって結果をまとめ、考察できるよう指導します。
3年生	・生徒一人ひとりに、毎回の授業で、考えたこと、理解したこと、知りたいと思ったこと等をデジタル機器を用いて記入させ、提出させ、個人の理解の程度や思考の状況、興味や学習に取り組む態度を把握します。 ・デジタル機器を用いて、生徒が自ら、課題を設定し、考えの交流を促し、広げ、深め、また協働を通じてまとめた意見を発表させます。	・毎回の授業で目標を明示し、見通しをもって学習に取り組めるようにします。また、授業の内容を振り返り、家庭学習により、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・単元(学習内容のまとまり)の学習が終わるごとに学習内容の振り返りにより、基礎的・基本的な内容が定着の程度を評価し、生徒にフィードバックすることにより、さらに定着をめざします。

（5）音楽科

【中学校】

音楽科における指導の重点
・合唱や合奏等の他生徒と協力して取り組む活動においても、一人ひとりの技能の向上を図ります。 ・音楽の諸要素に着目させ、曲想と音楽の構造や背景等との関わり及び音楽の多様性、生活との関わりに関心をもち、音楽を愛好する心情を育みます。

現状分析
教科指導上の課題
・音楽表現に必要な基礎的・基本的な技能の定着を図るため、技能習得の時間を十分に確保する必要があります。 ・音楽を形づくる諸要素について関心を高め、音楽文化や生活と関連づけながら指導をする必要があります。

↓

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・一人ひとりが毎時間の目標を自ら設定できるよう、生徒の実態に応じて課題を提示します。 ・表現領域の技能習得において、協働的に取り組ませ、教わってできたと感じ、教えて理解したと感じる楽しさを実感させます。	・生徒自身が課題に取り組む意欲をもてるよう、課題を段階的に3つ設定します。 ・合唱、器楽においてはペアやグループでの活動を行い、自分を客観的に見られるよう互いに動画を撮影して参考材料にする等、協働的な学びへつなげる環境をつくります。
2年生	・一人ひとりが毎時間の目標を自ら設定できるよう、生徒の実態に応じて課題を提示します。 ・鑑賞領域において、音楽を形づくる諸要素に着目させ、他単元の既習事項とも関連付けながら考えを述べられるようにします。	・生徒自身が課題に取り組む意欲をもてるよう、課題を段階的に3つ設定します。 ・一曲で着目する諸要素は1～2つに絞って提示し、既習の要素については、黒板や電子黒板に参考となる項目を提示して、関連させるものの例を挙げます。
3年生	・一人ひとりが毎時間の目標を自ら設定できるよう、生徒の実態に応じて課題を提示します。 ・鑑賞領域において、音楽を形づくる諸要素に着目させ、他単元や他教科等の既習事項とも関連付けながら考えを述べられるようにします。	・生徒自身が課題に取り組む意欲をもてるよう、課題を段階的に3つ設定します。 ・一曲で着目する諸要素は2～3つに絞って提示し、既習の要素については、黒板や電子黒板に参考となる項目を提示して、関連させるものの例を挙げます。

（6）美術科

【中学校】

美術科における指導の重点
生徒が自分のアイデアや感情を自由に表現できるような環境を整え、成功体験を経験できるような、適切な課題や制作プロセスを提供し、達成感を得る機会を増やします。表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質、能力を育みます。

現状分析
教科指導上の課題
（1年生）意図に応じて表現の工夫や作品制作の見通しをもたせ、個々に適切なサポートを提供していく必要があります。 （2年生）自分の表現方法を追求し、作品制作の見通しをもたせ、完成のイメージをもたせて指導していく必要があります。 （3年生）作品制作の見通しをもたせ、完成のイメージをもたせて指導していく必要があります。

授業改善プラン

	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他（基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・短期的な制作課題を与え、集中力を維持しやすいようにします。 ・個々の制作の中でも教え合い、学び合えるようなグループワークの場面を増やし、生徒が協力し合いながら制作できるよう、個々に役割をもたせます。 ・相互に鑑賞する時間をもたせ、自分の意見を述べられるようにします。	・個々の取組が達成しやすいように目標を３段階に設定します。また、生徒が集中して取り組めるよう、道具などの教室環境を整えます。 ・ICT を活用し、スライド・動画など、生徒が興味をもてるよう、教材を工夫します。
2年生	・短期的な制作課題を与え、集中力を維持しやすいようにします。 ・個々の制作の中でも教え合い、学び合えるようなグループワークの場面を増やし、生徒が協力し合いながら制作できるよう、個々に役割をもたせます。 ・相互に鑑賞する時間をもたせ、自分の意見を述べられるようにします。	・個々の取組が達成しやすいように目標を３段階に設定します。また、生徒が集中して取り組めるよう、道具などの教室環境を整えます。 ・ICT を活用し、スライド・動画など、生徒が興味をもてるよう、教材を工夫します。 ・見通しを持って制作できるよう、授業のスケジュールや完成イメージを提示します。
3年生	・説明内容をいつでも確認できる環境の整備をします。（ICT の活用） ・生徒が協力し合いながら、教えあい、学びあえるよう、グループワークで制作に取り組める工夫を行います。 ・相互に鑑賞する時間をもたせ、自分の意見を述べられるようにします。	・個々の取組が達成しやすいように目標を３段階に設定します。また、生徒が集中して取り組めるよう、道具などの教室環境を整えます。 ・ICT を活用し、スライド・動画など、生徒が興味をもてるよう、教材を工夫します。 ・見通しを持って制作できるよう、授業のスケジュールや完成イメージを提示します。

（7）保健体育科

【中学校】

保健体育科における指導の重点
・基本的な知識・技能を身に付けるために、ICTを用いた主体的に学習に取り組める授業をします。 ・全学年における体力向上を目指し、体力テストにおける中野スタンダードを指標にし、80%の達成率を目指します。 ・グループ活動を充実させ、話し合いの中で、課題を解決しながら、生涯スポーツの意義を学びます。

現状分析
教科指導上の課題
・基礎的な体の使い方や動かし方を指導する必要があります。 ・授業でケガや事故が発生しないように、安全対策などについて指導をする必要があります。 ・運動が苦手な生徒に対して、興味・関心を高めていく指導をする必要があります。

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・授業の導入で目標を設定しながら、実態に応じて、基本的な知識・技能を定着させます。 ・グループでの活動の中で話し合い活動を実施し、協働的に課題改善に向けて取り組みます。 ・技能の定着から、主体的に学習に取り組めるように、保健体育の楽しさを実感させます。	・スモールステップの授業により、個に応じた指導を行い、段階別に技能の習得を目指します。 ・一人1台タブレットや電子黒板を用いて、授業の振り返りなどを行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。 ・デジタルコンテンツの動画などから正しい動き方を学び、基礎から応用までの学習に取り組んでいます。
2年生	・授業の導入で目標を設定しながら、実態に応じて、基本的な知識・技能を定着させます。 ・グループでの活動の中で話し合い活動を実施し、協働的に課題改善に向けて取り組みます。 ・技能の定着から、主体的に学習に取り組めるように、保健体育の楽しさを実感させます。	・スモールステップの授業により、個に応じた指導を行い、段階別に技能の習得を目指します。 ・一人1台タブレットや電子黒板を用いて、授業の振り返りなどを行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。 ・デジタルコンテンツの動画などから正しい動き方を学び、基礎から応用までの学習に取り組んでいます。
3年生	・授業の導入で目標を設定しながら、実態に応じて、基本的な知識・技能を定着させます。 ・グループでの活動の中で話し合い活動を実施し、協働的に課題改善に向けて取り組みます。 ・技能の定着から、主体的に学習に取り組めるように、保健体育の楽しさを実感させます。	・スモールステップの授業により、個に応じた指導を行い、段階別に技能の習得を目指します。 ・一人1台タブレットや電子黒板を用いて、授業の振り返りなどを行い、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。 ・デジタルコンテンツの動画などから正しい動き方を学び、基礎から応用までの学習に取り組んでいます。

（8）技術・家庭科

【中学校】

技術・家庭科における指導の重点
・学習意欲を向上させるために技術・家庭科を自らの生活課題と関連付けながら、主体的に問題解決に取り組み、積極的に学ぶ姿勢を身に付けさせます。また学習評価を生かし授業の工夫改善を図ることで、指導と評価の一体化を実現します。 ・体験的活動や課題解決学習の積極的な推進を図り、ICT機器を用いた学習と従来の学習活動を組み合わせた授業改善を進め、ICT機器の効果的な活用等により、学ぶ意欲や課題を解決する力、コミュニケーション能力の育成に努めます。そのために、生徒同士の協働活動にICT機器を使用し、協同作業や意見共有を行い、自らの考えを深める機会を実現します。また、一つでも多くの知識・技能が身に付くよう、ICT機器を活用し、生徒が見て分かる授業の実現に取り組みます。

現状分析
教科指導上の課題
技術科 ： 今までの生活や学習で得た知識を、現在の学習に結び付けることができるよう、指導する必要があります。 家庭科 ： 学習への興味関心の深化と教科準備を徹底する必要があります。

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	技術科 ： ・課題に対する意見共有をコラボノートなどを活用し行います。 ・個々の技能に合わせた作品の設定をします。 家庭科 ： ・生徒同士の意見共有と協働する場面の設定を行います。	技術科 ： 前時の授業の振り返り課題を Google Classroom を活用して行い、知識の定着を目指します。また技術力の定着につながる学習活動を増やします。 家庭科 ： 興味関心を引き出す教材開発をします。
2年生	技術科 ： ・課題に対する意見共有をコラボノートなどを活用し行います。 ・個々の技能に合わせた作品の設定をします。 家庭科 ： ・生徒同士の意見共有と協働する場面の設定を行います。	技術科 ： 前時の授業の振り返り課題を Google Classroom を活用して行い、知識の定着を目指します。また技術力の定着につながる学習活動を増やします。 家庭科 ： 興味関心を引き出す教材開発をします。
3年生	技術科 ： ・課題に対する意見共有をコラボノートなどを活用し行います。 ・個々の技能に合わせた作品の設定をします。 家庭科 ： ・生徒同士の意見共有と協働する場面の設定を行います。	技術科 ： 前時の授業の振り返り課題を Google Classroom を活用して行い、知識の定着を目指します。また技術力の定着につながる学習活動を増やします。 家庭科 ： 興味関心を引き出す教材開発をします。

（9）外国語科

【中学校】

外国語科における指導の重点
・全学年で少人数指導を実施し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させます。 ・互いの考えや気持ちを伝え合う対話的な言語活動を重視し、言語活動の繰り返しを通じて資質・能力を育成します。

現状分析
区学力調査の結果分析
達成率　2年：60.3%　、　3年：62.7% ・おおむね目標値相応の結果が得られています。 ・2年生はリスニングが目標値を上回りましたが、場面に応じて書く英作文に課題があります。 ・3年生は英作文において目標値を大きく上回りましたが、リスニングに少し課題があります。
教科指導上の課題
・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る指導をする必要があります。

授業改善プラン		
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」 の一体的な充実の視点	その他 （基礎的・基本的な内容の定着を図る視点等）
1年生	・ペアワーク、パターンプラクティス、インタビュー活動やALTとの共同授業などを通して、さらに積極的に英語を使用する場面を意図的に取り入れていきます。 ・セクション毎の2問テスト・単元テスト実施から、学習の定着度を確認し、授業にフィードバックします。 ・基本文法を用いた簡単なコミュニケーション活動やスピーチ発表を行い、表現力や伝え合う力を高めます。 ・自作のワークシート・デジタル教材を活用し、既習文法事項の一層の定着を図ります。 ・生徒用タブレットに導入されたデジタル教科書や教科書の QR コードを用いて、積極的に新出語句の発音や本文の音読練習に取り組みます。 ・図書館にある多読用図書を活用します。	・毎回の授業で目標を明示し、見通しをもって学習に取り組めるようにします。また、授業の内容を振り返り、家庭学習により、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題に取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・放課後の学習教室を利用して、定着に時間の必要な生徒の指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。
2年生	・ペアワーク、パターンプラクティス、インタビュー活動やALTとの共同授業などを通して、さらに積極的に英語を使用する場面を意図的に取り入れていきます。 ・セクション毎の2問テスト、単元テストを実施し、学習の定着度を確認し、授業にフィードバックします。 ・自作のワークシート・デジタル教材を活用し、既習文法事項の一層の定着を図ります。 ・単元ごとにリテリングテストまたはコミュニケーションテストを行い、1人1人の生徒が英語で話すことに自信をもたせます。 ・生徒用タブレットに導入されたデジタル教科書や教科	・毎回の授業で目標を明示し、見通しをもって学習に取り組めるようにします。また、授業の内容を振り返り、家庭学習により、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題に取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・放課後の学習教室を利用して、定着に時間の必要な生徒の指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。

	書の QR コードを用いて、積極的に新出語句の発音や本文の音読練習に取り組みます。 ・図書館にある多読用図書を活用します。	
3年生	・ペアワーク、パターンプラクティス、インタビュー活動やALTとの共同授業などを通して、さらに積極的に英語を使用する場面を意図的に取り入れていきます。 ・セクション毎の2問テスト、単元テストを実施し、学習の定着度を確認し、授業にフィードバックします。 ・単元ごとにリテリングテストまたはコミュニケーションテストを行い、一人一人の生徒が英語で話すことに自信をもつことができるよう指導します。 ・東京都グローバルスタジオを活用し、リスニング能力の向上、スピーキングの練習、文法内容の復習を行います。 ・生徒用タブレットに導入されたデジタル教科書や教科書の QR コードを用いて、積極的に新出語句の発音や本文の音読練習に取り組みます。 ・図書館ににある多読用図書を活用します。	・毎回の授業で目標を明示し、見通しをもって学習に取り組めるようにします。また、授業の内容を振り返り、家庭学習により、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・学習アプリ「Qubena」を活用し、日々の授業の振り返りを行い、個に応じた問題に取り組ませ基礎的・基本的な内容の定着を図ります。 ・放課後の学習教室を利用して、定着に時間の必要な生徒の指導を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図ります。

（10）特別の教科 道徳

【中学校】

道徳科における指導の重点
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、読み物資料を活用した道徳的諸価値についての理解をもとに、少人数グループによる話し合い活動を取り入れた授業「南中スタンダード」を通じて自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考えたり、人間としての生き方についての考えを深めたりする学習を通じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てます。

現状分析
教科指導上の課題
・R3道徳の時間についてのアンケート結果 道徳の時間が好きである　1学年 86.5% 2学年 71.5% 3学年 84.0% 道徳の時間に友達の考えをきちんと聞くことができている　1学年 94.4% 2学年 100% 3学年 98.0% 道徳の時間に自分の意見を言うことができる　1学年 86.5% 2学年 96.9% 3学年 96.0% 道徳の時間を通して、自分の心に気づきや変化があった　1学年 82.0% 2学年 87.7% 3学年 84.3% 道徳の時間を通して、人間としての生き方を考えた　1学年 89.7% 2学年 91.8% 3学年 90.2% ・R4道徳の時間についてのアンケート結果 道徳の時間が好きである　1学年 76.1% 2学年 81.3% 3学年 78.8% 道徳の時間に友達の考えをきちんと聞くことができている　1学年 96.8% 2学年 98.8% 3学年 97.7% 道徳の時間に自分の意見を言うことができる　1学年 83.8% 2学年 98.7% 3学年 98.8% 道徳の時間を通して、自分の心に気づきや変化があった　1学年 78.5% 2学年 80.1% 3学年 81.2% 道徳の時間を通して、人間としての生き方を考えた　1学年 89.1% 2学年 86.1% 3学年 84.1% ・「道徳の時間に友達の考えをきちんと聞くことができる」は安定して数値が高く、「道徳の時間に自分の意見を言うことができる」は進級後に数値が上がっています。引き続き生徒に意見共有や話し合い活動を定着深化させるために、南中スタンダードを軸とした授業を継続実施する必要があります。 ・「道徳の時間を通じて、自分の心に気づきや変化があった」「道徳の時間を通して、人間としての生き方を考えた」は80%以上を維持しているものの、進級と共に数値が若干下がっています。生徒に道徳的諸価値の理解を深めさせる手段として、教科書の内容に付随するデジタル資料を積極的に活用し、一人1台タブレットの活用を継続して推し進める必要があります。

授業改善プラン
具体的な授業改善案
・本校の取組である南中スタンダードを通じて、生徒の積極的な意見交換等を通じた、主体的・対話的で深い学びを継続します。 ・一人1台タブレットを活用し、コラボノート、Googleスプレッドシートなどを使用した意見共有の実践を通じて、物事を多面的、多角的に考える授業を実施します。 ・デジタル教科書をはじめとする電子資料の積極的な活用を通じて、道徳的諸価値の理解を深める授業を実施します。